

株式会社 光栄プロテック

金属製品の意匠を最上級 グレードに高める

- 納期相談
- 企画力自信有
- コスト相談
- オンラインワン技術
- メイドインジャパン
- 試作可小ロット
- 量産対応



硫化いぶし仕上げの作業

業務内 採用多数

建築金物などの意匠を高める仕上げ加工を専門に行っている。銅合金の建築金物の意匠仕上げ「硫化いぶし仕上げ」は、銅に反応する薬品で乾式発色させ最上級の風合いを持たせる珍しい手法。さらに独自技術として、銅以外のステンレスやスチールを硫化いぶし風にする技術も保有する。このほか銅独特の「緑青仕上げ」や、鏡面塗装による「ピアノ調仕上げ」など多彩な仕上げ技術が可能。例えば「緑青仕上げ」は日本銀行大阪支店の屋根、「ピアノ調仕上げ」は高級ブランド「プラダ」ショッポの内外装材など多くの建築物に使用されている。



真ちゅう硫化いぶし仕上げ（京都国立博物館）

強み 顧客の求める風合い 実現に挑戦

乾式発色技術は独特の手法で、金物を脱脂、研磨で地模様を作り、薬品を塗布して金属の酸化を促進して発色させ、乾燥した後、さらに研磨して発色を調整する。顧客の求める風合いの実現には困難を伴うが、三田雅憲社長の「実績を重ねるためにも、顧客ニーズから離れてはいけない」という方針のもとに、新しい加工にも挑戦している。営業部を設置してきめ細かい顧客対応を行う一方、全員が仕上げ技術の習得に努めている。データベースによる生産システムの構築で、仕様、

色合いなどの情報を共有化し、顧客満足度を高めるために用いている。

新規市場 業界、地域の幅を広げ、 経営リスクを分散

別注建築金物市場は平成5年頃まで需要が多かったが、バブル景気崩壊の影響で10分の1に激減した。この間、全国の同業者も減少したが、エレベーター扉や電車車輌に用いられる金属意匠製品など設備製品や工業塗装分野にも進出したことでリスクを低減、安定した経営を継続している。最近では別注建築金物の受注も盛り返しつつあり、受注チャンスは拡大している。大阪に比べて市場規模の大きい首都圏市場にも進出するため、平成27年10月に千葉県貝井市に工場を新設、関東地区ユーザーを開拓、地域リスクの分散を図っている。

今後の展望 全社一丸で技術を継承

乾式発色技術仕上げ加工の市場は大きくないが、それだけに大手企業も参入しないニッチ分野。今では専業が珍しくなっているが、需要がなくなることはない。三田社長は「残さなければならぬ技術」と力を込め、自社での技術継承に取り組んでいる。20代から70代まで社員構成も幅広く、ひとりですまざまな工程を行えるマルチ化も進める。手がける意匠製品は長く残り、若手社員は「お客様に喜んでいただいていることが直に感じられる仕事」とやりがいを感じている。家族的な雰囲気の中で、会社の発展、継承に一丸となって挑む。

COMPANY PROFILE

株式会社光栄プロテック

大阪
27

当社の 歴史

現会長の道下正治が東京の会社で乾式鍍金技術を習得、昭和45年に大阪で創業しました。当初は建築金物の現場塗装が主体でしたが、大阪工場を新築してからは工場での加工が主体になっています。建築金物以外のエレベーター製品や電車車輌など工業塗装分野にも進出しています。

お客様、仕入れ先、社員に「縁があって本当に良かった」と感じてもらえる会社を目指しています。

代表取締役社長 三田 雅憲さん



■主な事業内容

金属意匠製品の特殊表面処理
や特殊塗装および一般工業塗装

■主な取引先（納入先）

エレベーター・エスカレーター製造
メーカー、建築金物メーカー、内装金
属製品メーカー、工作機械メーカー、
照明金物メーカー、看板メーカー、
電車車輌メーカー、別注建築金物
メーカー、ドアハンドルメーカー、その他

住 所／〒573-0131
枚方市春日野
2-2-12

T E L／072-859-1365

F A X／072-859-3023

創 業／昭和45年4月

設 立／昭和60年1月

資本金／1,000万円

従業員／18名

<http://koeip.co.jp/>